



このドキュメントについて	2
リリース・ノート - 概要	2
<b>基本的なユーザーインター</b>	
フェイス/メニュー構造の変更	3
MIDI シンク	3
ルーピングと MIDI シンク	3
<b>MP-76 対応</b>	4
Switch-3 と Switch-6 の ループ・コントロール	5
ルーパー→ NaturalPlay	5
RoomSense を NaturalPlay にミックス可能	6
<b>インプット LED がギターとヴォーカル・レベルの</b>	
両方を反映	6
エクスペッション・ペダルのレスポンスの改良	6
TALK TRIM (トーク・トリム) のオフ対応	7
ヴォーカル・キャンセル機能の改良	7
コード検出の精度向上	7
<b>タップ・テンポのポップアップ表示の変更点</b>	
ならびにテンポ・スクロール	8
ルーパー LED の点滅	8
ループ・トリガー・ボタンマップのハイライト表示	8
MIX パラメーター・レンジの拡張	9

Product	VoiceLive 3
Product (firmware) version	1.2
Document	レファレンス・マニュアル - ファームウェア 1.2 追加情報
Document version/date	2015-03-17

# VoiceLive 3 ファームウェア 1.2 アップデート 追記マニュアル

## このドキュメントについて

本マニュアルは、VoiceLive 3 ファームウェア・バージョン 1.2.02 の変更点についての情報を含みます。

本ファームウェア・アップデートでは、多くの機能が強化されています。

変更点はリリース・ノートの通りです。続く各セクションでは、各変更点の機能と設定方法を解説します。

## リリース・ノート - 概要

- ▶ MIDI テンポの受信に対応しました。
- ▶ ループの出力を NaturalPlay にルーティング可能になりました。
- ▶ NaturalPlay の検出エンジンに RoomSense マイクの入力を含めることが可能になりました。
- ▶ インプット・レベル LED が、ギターとボーカル両方のレベルを表示するようになりました
- ▶ エクスプレッション・ペダルの反応が改良されました。
- ▶ TALK TRIM パラメーターをオフにすることで、TALK/TUNER モード時にマイクをミュートすることが可能になりました。
- ▶ ヴォーカル・キャンセル機能が改良され、より多くの種類のミックスや音楽スタイルに対応するようになりました。
- ▶ コード検出エンジンが改良され、精度が向上しました。
- ▶ タップ・テンポのポップアップ表示が 3 秒に変更されました。
- ▶ タップ・テンポのポップアップ表示中に、プリセット上下ボタンでテンポの調整が可能になりました。
- ▶ ファンタム電源のオン時にマイクがミュートされるようになり、PA スピーカーからポップ・ノイズが出力されることを防ぐようになりました。
- ▶ ルーパーがアクティブでループ・レイヤー外にいる際に、ルーパー・タッチボタン隣のルーパー LED が点滅するようになりました。
- ▶ ループ・トリガーの再生時に、ボタンマップが他のエフェクト同様に白背景で表示されるようになりました。
- ▶ いくつかの MIX パラメーターのレンジが拡張されました。
- ▶ MP-76 対応
- ▶ Switch-3 と Switch-6 によるループ・コントロール

## このファームウェア・アップデートについて

**警告：本アップデートを適用すると、設定は工場出荷時のデフォルト状態に戻ります。アップデートを行う前に、ご自分で作成した設定のバックアップを保存しておいてください。プリセットは影響を受けません。**

## 基本的なユーザーインターフェイス／メニュー構造の変更

VoiceLive 3 の外部コントロール機能の強化に伴いメニューが整理され、ユーザー・インターフェイスに若干の変更が加えられています。

従来の SETUP > BUTTONMAP タブは、MIC CONTROL と FOOTSWITCH タブに置き換えられました。各タブに表示される設定オプションは、選択内容によって異なります。

例えば、INPUT メニューで「MP-75」または「e835FX」を選択した場合には、MIC CONTROL タブには「Mic Switch Function」と「Mic Switch Mode」の設定オプションが表示されるようになります。「MP-76」を選択した場合には、4 つのボタンそれぞれの設定オプションと、ラッチ／モメンタリー切り換えのパラメーターが表示されます。

## MIDI シンク

VoiceLive 3 は MIDI シンク情報の受信に対応し、外部マスター機器とのテンポ同期が可能になりました。

MIDI テンポをオンにするには、SETUP - MIDI メニューの MIDI Tempo パラメーターをオンにします。

VoiceLive 3 は、スレーブとしてのみ機能します。MIDI テンポ情報の生成と送信には対応していません。

VoiceLive 3 に MIDI テンポ情報を送る際には、テンポまたはオーディオ情報を約 70 ms オフセットさせることを推奨します。

Ableton Live では、テンポ・オフセットは Sync メニューから行えます。テンポとオーディオを揃える手順は次の通りです。

- ▶ VoiceLive 3 の MIDI シンクをオンにします。
- ▶ VoiceLive 3 の MET をオンにします。
- ▶ DAW のオーディオ・メトロノームをオンにします。
- ▶ DAW 側で MIDI テンポ情報の出力をオンにします。
- ▶ DAW と VoiceLive 3 のオーディオ・メトロノームを同時に鳴らします。
- ▶ DAW 側のテンポ・オフセットを調整し、DAW と VoiceLive 3 のメトロノーム音の発音タイミングを揃えます。

## ルーピングと MIDI シンク

VoiceLive 3 のルーパーを外部 MIDI テンポと同期させることは可能でしょうか。

シンプルな質問ですが、その答えは若干複雑です。実質的には「イエス」と言えます。

ループの録音を開始していない状態で MIDI テンポ情報を VoiceLive 3 に送ると、MET は受信テンポに設定され、ループをそのテンポで録音されます。

ループを録音した後でテンポを変更した場合には、タイムストレッチ等タイミングを合わせるための処理は**行われません**。これは、VoiceLive 3 の従来バージョンの反応から変更ありません。最初のループを録音した時点で、テンポはロックされます。

例外は、ループの終点です。ループの終点に到達すると、次の MIDI テンポのビートに合わせてループを再生し直します。これは、受信 MIDI テンポの若干の揺らぎに対して対応するための策でルーパーを再生させながらテンポ変更を行うためのものではありませんが、若干の変化には追従します。

また、ルーパーは 1 bpm 以上の精度を持ちます。マスターを 118.4 bpm のテンポで再生させると、VoiceLive 3 のディスプレイには 118 と表示されるものの、しっかりとテンポに追従します。

## MP-76 対応

次のようなことが可能となります。

- ▶ DAW でテンポを決めてオーディオを再生させながら、
- ▶ ギターとヴォーカルのディレイやリズムック・エフェクトのタイミングをオーディオ・トラックと合わせ、
- ▶ DAW のオーディオ・トラックと同期してループの録音／再生を行うことができます。

VoiceLive 3 をラップトップと併用する際に、より高いインテグレーションを実現します。

本バージョンでは、MP-76 マイクに対応いたしました。マイク本体の操作で、ヴォーカル・エフェクトやループの操作が行えます。

### MP-76 の設定

VoiceLive 3 の INPUT タブにある INPUT TYPE パラメーターを MP-76 に設定します。

ターゲットの選択肢は次の通りです。

- ▶ μMod
- ▶ Delay - ディレイ
- ▶ Reverb - リバーブ
- ▶ Vocal HIT - ヴォーカル HIT
- ▶ Double - ダブルリング
- ▶ Harmony - ハーモニー
- ▶ Transducer - トランスデューサー
- ▶ HardTune
- ▶ Rhythmic - リズムック
- ▶ Stutter - スタッター
- ▶ Choir - クワイヤー
- ▶ Synth - シンセ
- ▶ Harmony Hold - ハーモニーホールド  
Harmony Hold を選択した場合、Harmony がオフの状態にあった場合には自動的にオンになります。この変更により、設定の手順が簡素化されました。
- ▶ STEP - ステップ
- ▶ Tap Tempo - タップ・テンポ
- ▶ Bypass - バイパス  
SETUP メニューの TALK TRIM を OFF にすることにより、実質的なミュートとして使用することができます。
- ▶ ALL HIT

- ▶ Preset UP/DN - プリセット・アップ／ダウン  
プリセット変更の操作方法は次の通りです：
  - ▶ タップで Preset UP (プリセット・アップ)
  - ▶ 長押しで方向の変更
  - ▶ タップで Preset DN (プリセット・ダウン)
  - ▶ 再度長押しで方向の変更
- ▶ Preset Step - プリセット・ステップ
  - ▶ 長押しでプリセット変更
  - ▶ タップで STEP
- ▶ Tuner - チューナー
- ▶ 1 Button Looper - ワンボタン・ルーパー  
一つのボタンでルーパー操作を行えます。操作方法は次の通りです：
  - ▶ タップで REC/PLAY/ODUB (録音／再生／オーバーダブ)
  - ▶ ダブルタップで STOP (停止)
  - ▶ ダブルタップの二度目のタップを長押しで CLEAR (クリア)
 全てのワンボタン・ルーパーは、ループが停止している状態からダブル・タップの二度目のタップを長押しする際に、瞬間的に音が再生されてしまいます。これを避けるには、STOP/ERASE を他のボタンに割り当てる必要があります。
- ▶ Loop PLAY/REC (Oudb) - ループ再生／録音 (オーバーダブ)
- ▶ Loop STOP/ERASE - ループ停止／消去
- ▶ Loop UNDO - ループ・アンドゥ
- ▶ Preset UP - プリセット・アップ
- ▶ Preset DOWN - プリセット・ダウン

MP-76 の全ターゲットは、ラッチ (タップ毎にオン／オフ切り換え) とモメンタリー (押ししている間オン／離すとオフ) を選択できます。

## Switch-3 と Switch-6 の ループ・コントロール

外部フットスイッチでルーパーを操作したいとの多くのユーザー・リクエストに応え、VoiceLive 3 ルーパーのトラック A を Switch-3 または Switch-6 からコントロールできるようになりました。

より高度な操作を行うには、今までと同様、ループ・レイヤーでの操作を推奨します。ループ・レイヤー上での操作は、状況に合わせてフットスイッチの機能が変わります。

Switch-3 と Switch-6 にアサインしたコントロールは Sync / MET / Input 等のように、現行ループ・スロットに割り当てられます。

設定オプションは次の通りです。

- ▶ STEP - ステップ
- ▶ PITCH COR - ピッチ補正  
(HardTune ではなく SETUP のグローバル設定)
- ▶ ALL MUTE - オール・ミュート
- ▶  $\mu$ Mod
- ▶ Delay - ディレイ
- ▶ Reverb - リバース
- ▶ Voc HIT - ヴォーカル・ヒット
- ▶ Double - ダブリング
- ▶ Harmony - ハーモニー
- ▶ Transducer - トランスデューサー
- ▶ HardTune
- ▶ Rhythmic - リズミック
- ▶ Stutter - スタッター
- ▶ Choir - クワイヤー
- ▶ Synth - シンセ

- ▶ Harm Hold - ハーモニーホールド
- ▶ Set Key - キー指定
- ▶ Tap Tempo - タップ・テンポ
- ▶ Bypass - バイパス
- ▶ G  $\mu$ Mod - ギター  $\mu$ Mod
- ▶ G Delay - ギター・ディレイ
- ▶ G Reverb - ギター・リバース
- ▶ G HIT - ギター HIT
- ▶ G Comp - ギター・コンプレッサー
- ▶ G Drive - ギター・ドライブ
- ▶ G Amp - ギター・アンプ
- ▶ G Rhythm - ギター・リズミック
- ▶ G Octaver - ギター・オクターバー
- ▶ G Wah - ギター・ワウ
- ▶ G Mute - ギター・ミュート
- ▶ ALL HIT - オール HIT
- ▶ Go Looper - ループ・レイヤーに移動
- ▶ Loop Input - ループ・インプット
- ▶ Tuner - チューナー
- ▶ 1But Looper - ワンボタン・ルーパー
- ▶ L PlayRec - ループ再生／録音 (オーバーダブ)
- ▶ L StopErase - ループ訂正／消去
- ▶ Loop Undo - ループ・アンドゥ
- ▶ L Erase All - ループ全消去

## ルーパー→ NaturalPlay

LOOPER メニューに MIX LOOPER TO NP の設定オプションが追加されました。ルーパーの音声出力を、NaturalPlay アルゴリズムにルーティングすることが可能になりました。

ギターのように信号パスは独立しておらず、既存のオーディオにミックスされる形となります。例として、ルーパーでギターのコードを録音し、そのループに合わせてアカペラを歌ってハーモニー / HardTune のキーを合わせることができます。

録音されたループの音声とは無関連のコードを弾いてしまうと、コード検知システムが混乱してしまう点にご注意ください。

## RoomSense を NaturalPlay にミックス可能

ギター等の NaturalPlay 情報に RoomSense マイクが拾った音をミックスすることで、検知の精度を向上させます。このパラメーターは、SETUP - SYSTEM に追加されています。

RoomSense マイクからの入力信号からコード検知を行うための十分な情報が得られる場合には、他のインプットを必要としません。環境の条件がそろえば、ギターまたは MIDI 情報によるコード情報がない場面でも、VoiceLive 3 がバンド全体の音を聴いてコード情報を解析することが可能となります。

## インプット LED がギターとヴォーカル・レベルの両方を反映

歌っていない状態でギターを弾くと、LED はギターのレベルを表示します。ギターを弾かずに歌うと、LED はヴォーカルのレベルを表示します。ギターを弾きながら歌うと、LED は両方の合算レベルを表示します。

ギターのレベルが適正な状態にあるか確認しやすくなりました。

## エクスプレッション・ペダルのレスポンスの改良

エクスプレッション・ペダルの反応曲線が改良され、ペダルの実用レンジにおいてより正確なコントロールが可能となりました。ペダルの上 80% が、下 20% と比べて小さいレンジをカバーするようになりました。

エフェクトを概ねのレベルに合わせるのがより容易になり、ペダル・ダウン（パラメーターの下限值）寄りではより急峻な反応となります。



## TALK TRIM（トーク・トリム）のオフ対応

TALK TRIM パラメーターをオフにすることが可能となりました。TALK/TUNER モード時に、マイクがミュートされるようになります。プリセット・アップ/ダウン・ボタンのホールド(長押し)で TALK/TUNER に入る際に、ギターのみならず、ヴォーカルも同時にミュートさせることが可能になりました。

ステージから一時的に離れる際の「一時休憩モード」としてご使用いただけます。この状態でも AUX 信号は引き続き出力されますので、セット間にお好みの BGM を流す、といった使い方ができます。

## ヴォーカル・キャンセル機能の改良

ヴォーカル・キャンセル機能が改良され、より多くの種類のミックスや楽曲タイプに対応するようになりました。従来に比べ、より効果的にリード・ヴォーカルのレベルを減少させることが可能ならずです。

## コード検出の精度向上

内部コード検出エンジンが改良され、従来では不正確なコードが検出された特定の状況において正しいコードが選択されるようになりました。ルートと3度は必須、5/7 度は推奨というコード検知の条件に変更はありません。

## タップ・テンポのポップアップ表示の変更点ならびにテンポ・スクロール

テンポのポップアップ表示時間が延長されました。また、ポップアップ表示中に、プリセット上下ボタンでテンポを手動で微調整することが可能になりました。

## ルーパー LED の点滅

ヴォーカルまたはギター・レイヤーでループを再生させている際に、ルーパー・ボタン隣の小さい赤 LED が点滅するようになり、ループが再生中であることを表示するようになりました。

## ループ・トリガー・ボタンマップのハイライト表示

ループ・トリガーを再生させた際に、エフェクト・オン時の表示と同様に、オンスクリーンのボタンがハイライト表示されるようになりました。

## MIX パラメーター・ レンジの拡張

MIX パラメーターを特に AUX 信号において現在の下限よりも低く設定したいとのユーザーからの要望に応え、パラメーターのレンジが拡張されました。

